

沖縄県社保協ニュース



沖縄県社会保障推進協議会

会長 新垣安男 事務局長 高崎大史

那覇市古波蔵 4-10-53 健康企画ビル 3 階

沖縄民医連内 098-833-3397 Mail:okisyaho@gmail.com

20210607

22 期 No. 1

《部内資料》

総会報告詳報

県社保協総会 2年連続でオンライン開催 記念講演含め 40 会場から 100 名超参加 10 自治体首長からメッセージ(過去最高) コロナ禍のいこえる社会保障の再構築を！

○2021 年 5 月 29 日 14 時—17 時

2021 年度沖縄県社会保障推進協議会総会を開催しました



○参加数 記念講演含め 20 団体から 40 会場に分かれ 100 名

○自治体首長メッセージ 10 自治体(過去最高)

県知事、那覇市、豊見城市、浦添市、南城市、西原町、北中城村、伊平屋村、今帰仁村、渡嘉敷村、合計 10 自治体

○記念講演 別紙感想文参照 ユーチューブで+40 名視聴

○報告発言 13 本



第一部 記念講演「コロナ禍のりこえ

命を大切にする社会をつくるために」

講師 鹿児島大学法文学部 伊藤周平教授



コロナ感染拡大で、いまおこっていること

そして、コロナ危機と高齢化社会を乗り越えるためには

命を守る社会保障予算を確保すること

そのための財源確保のあり方をお話いただきました

感想を紹介します

社会保障の削減の結果が今のこのような状況を^作_造しているの、やはり消費税削減しかないように思いました。
社会保障の見直しをどうにしていける必要があると感じました。
伊藤先生の講演会は、はっきりと意見が言われていてとても分かりやすかったです。

コロナ禍の状況では、国が責任を持ち、国民の命を第一に考え、政策を立てていくべきであるのに、自助・共助を掲げ、国の責任を投げ出している。病床削減・医療費抑制・社会保障費の削減と守るべきものを削ろうとしている。このような命を軽視する政権は、次期選挙で打倒すべきである。その為に社会保障運動を盛り上げ選挙につなげていくべき。

感想やご意見を記入をお願いします

特に印象に残ったこと

医療の課題について、

短期的課題として、宿泊療養施設と感染症病床をふやすこと、院内感染を防ぐため医療従事者等に定期的 PCR 検査実施を国の負担で行う。コロナ対応していない医療機関にも十分な損失補償を行うこと。

長期的課題として、地域医療構想を抜本的に見直し、公立病院再編統合リストの撤回と赤字の公立病院への公費投入と増設、保健所の拡充と公費投入を行うこと。

現在の医療崩壊を改善し、今後も未知の感染症に対応するためにも国の負担で行うことが必要だと思いました。

社会保障の財源問題では、イコール消費税と思い込まされてきたが、実際は社会保障の財源を消費税以外の歳入は切断し、社会保障の充実が消費税増税でしか賄わないという本質がある。

消費税増税と法人税減税はセットなので、所得税・法人税の累進性強化や不公平税制の是正で十分に賄えることができる。

感染症にも強い医療保健体制の充実とその財源確保についても税の集め方使い方を変えることで実現可能となることが分かりました。

しばらく YouTube 視聴ができます。おすすめします。

<https://www.youtube.com/watch?v=8BQKQZmGBYI>



コロナ禍で明らかになった日本の社会保障の脆弱で、政権の無策ぶりが鮮明になりました。
こんな状況ではある一定の支持率を維持する事が信じられない。
国民を悩ませた政権は選挙で審判を下すしかない。

14:00 司会挨拶(島袋聡)

開会あいさつ(新垣安男会長)

14:05-15:20 記念講演 質疑含む

「コロナ禍をのりこえ、いのちを大切にする社会をつくるために」

講師 伊藤周平氏(鹿児島大学法文学部教授)

*質疑応答

Q 五輪開催は本当に精神論だと思います。なぜ転換できないのか。菅首相は弱者へ点が感じられない。

背景は何か?(自治労連 稲福)

A 背景として、自民党の中にどんな形でもやれば盛り上がるだろうという見立てがある。国民を軽く見て。忘れやすい感動すれば・・・私たちが本当に怒って審判を下さねばわからないのだろう。首相が檄飛ばして、総務省局長が自治体に電話かけて脅してワクチン急がせている。ある意味政権の末期症状。希望的観測のコロナ政策のつけ。科学的根拠に基づいた最悪のシミュレーションができていない。

Q 五輪開催は世論調査では賛成少ないが、マスコミは中止を言わない何が怖くて黙っている?(保険医協会 仲里)

A ようやく朝日の社説が出た。スポンサーのためだろうか? マスコミも世論にそってほしい。

15:25-15:40

知事からのメッセージを神谷副会長より玉城デニー知事からのメッセージ読み上げました

○総会基調報告 高崎事務局長

今年の特徴は3つありました

ひとつは

コロナ禍で、全国集会や全国会議などがリアルではできなかったこと
合わせて、本土から講師や参加を呼び掛けることもできませんでした

二つ目には

裏腹ですが、オンラインでの行事や学習会ができるようになりました

2年連続総会オンライン総会となりました。

三つ目には

コロナ禍だからこそ、積極的に自治体要請に取り組みました

自治体キャラバンも離島こそ断念しましたが、本島内26市町村全部と県庁を回りました

キャラバン以外に「コロナ支援」「国保改善」「子ども医療費無料化」などで県庁や那覇市あてに要請行動を14回行っています。詳細内容はぜひ付属資料のニュース紹介をご参照ください

キャラバン総括について「新自由主義」改革が、県をコントロールタワーにしたて、市町村を実行部隊にして、住民施策を削減、調整させようとしています。特に、国保や介護で「負担増」「サービス抑制」を「交付金」を使って、競争させています。もし、住民からの要求がなければ、国からの圧力に行政が屈しやすくなるでしょう。

この間、子どもの医療費や就学援助では、それぞれの自治体の進んだ事例をキャラバンで紹介する中で、改善が加速したことは、地方自治の本旨がまだ生命力を持っている証明です。

超高齢社会を迎え、医療や介護の必要性は増すのに対し、国や大資本の「削減圧力」も強まります。自治体を住民福祉増進の拠点として守っていく「自治体キャラバン」を引き続き、多くの住民参加で協力をお願いします。」

～中略～

重点課題は、コロナ禍での支援制度の改善、コロナ後の新しい社会の提起、自治体キャラバンの成功

個別重点としては、国保の改善、子ども医療費無料化、介護保険の改善が特に重点となりますが

これに加え、揺れ動く生活保護制度の運用改善も重点として挙げておきたいと思います

具体的戦略として7つ

○学習運動の展開 オンラインを活用します

○地域社保協の強化 日常活動もできるように援助します

○役員や事務局体制の強化 特にブロック体制での協力をお願いしたいと思います

○加盟団体の運動の交流と共有○自治体要請をキャラバンだけでなく通年で行います

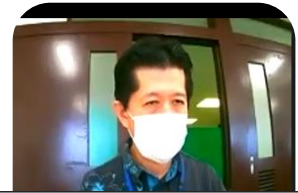
○混迷する情勢に対応するだけの理論や資料を集めます

○財政強化 カンパや資料販売など収入を増やし、機関誌の無料配布をやめ、希望者に有料配布とします

続いて、自治体キャラバンの提案です

総選挙も予想されますので

8月に開催します。参加要請方針は、6月中に発表したいと思います



司会 島袋聡事務局次長



神谷信夫副会長



社会保障情勢が「歴史の分岐点」にある中、活動を弱めることはできません

新たな事業活動、募金活動、新規加盟団体の獲得、既存会員への協力要請などで財政を確保します

「社会保障誌」の有料化により、改善をはかります

以上で議案の説明とします。ありがとうございました。

15:40-16:15 要請内容に沿って、各団体から報告(5分ずつ)

①誰もが安心して医療を受けられるように(沖商連)⇒知念三四志沖商連事務局長

27日に那覇市議会に国保陳情 独自でも要請行動くりかえしおこなった

国保のコロナ特例減免(3割減収)は画期的。30万、40万減免のケースも。今年度も継続を求めて陳情、3月末までに9議会で決議。国は3月12日に今年も継続と発表。しかし、全額国の補助ではなく、自治体負担が出てきた。

国保の統一保険料への動き、法定外繰り入れ解消の動き、子どもの均等割り全額免除要求、6月議会への陳情、自治体キャラバンでもとりあげよう

②子どもたちの健やかな成長のために(新婦人)(母親大会)

子ども医療費無料化の運動⇒宮里節子新婦人副会長、

1973年から48年間たたかってきた。2018年、現物給付化要求、大きく広がってきた。

沖縄の署名運動、新婦人の中央本部にも協力要請。

生理の貧困対策、生理用品を無料配布を要請。キャラバンでも取り上げよう

就学援助について⇒波平文子母親大会事務局長

全国の中で明らかになってきたこと、一つは、コロナのもとで修学旅行が中止になった場合、キャンセル料をどこが負担するのか問題になっている。結局保護者負担？保護者負担にしないように要請していこう

もう一つは、オンライン授業について、小中学校、大阪ではすぐ中止、一律対応はできなかった。きちんと話し合ってからやってほしい。生理用品のことですが、市町村や県の公的施設のトイレにも生理用品を置いてほしい。

最後に、就学援助の申請のテレビCMがなくなっている。復活させてほしい。

③誰もが安心して介護サービスを受けられるように(医療生協)⇒西仲ゆかりさん(医療生協介護事業課長)

*別紙 パワーポイント参照

④障害のある方が当たり前に暮らせるように(きょうされん)⇒朝妻あきら きょうされん沖縄支部長

要請項目に入る前に、昨年度の国会請願署名に協力ありがとうございました。半分は社保協からの署名でした

全国で約100万筆集まります。コロナ前は直接国会議員にお願いしていた。去年の署名は、自民党の今井議員、西銘議員、宮崎議員の3名以外の8名の沖縄選出議員は紹介議員になっていただけた。国会では残念ながら採択に至っていないが粘り強く訴えていきたい。

今年のキャラバン要請は1. 65歳からの介護保険優先原則の弾力的運用について

厚生労働省の通知の主旨がわかっていない自治体が多い。本人のニーズ、意向に基づき、厚生労働省の通知の主旨に沿って、引き続き障害福祉サービスが利用できるようにしてください。その際、高齢障害者の利用負担軽減制度の利用も併せてお願いします。2018年からの制度だが、意外と使われていない。

2. 障害者の雇用について 障害の種別を限定せず、すべての障害者を対象とした採用制度を新たに作り、早急に施行してください。通知文が出ていますが改善されていない。知的障害者は民間で雇用されているのに、自治体では進まない。

3. 地域生活支援事業など自治体独自のサービスについて、障害のある人たちのニーズをもとに、他の自治体の事業等も参考にしながら取り組んでください。2014年に障がい者権利条約を批准したが、虐待も減っていない。

しかし、自立支援法見直しの「基本合意」が、改悪のブレーキになっている。

⑤すべての人に文化的な生活を保障するために

(生活と健康を守る会)⇒仲西常雄生健会会長

*別紙パワーポイント参照

⑥老後も安心して暮らせるように

(年金者組合)⇒安良城政俊 年金者組合書記長

高齢者にとって年金は重要な生活資金となっています。国は「2020年度は年金が引き上がった」と言っていますが、マクロ経済スライド制の導入で年金受給額は実質減少し、ただでさえ厳しい高齢者の生活を圧迫し続けています。また、中高年の引きこもり、いわゆる「8050」問題も社会問題となっています。

I、国に対して、貴自治体より以下の要請をしてください。

① 消費税に頼らない「最低保障年金制度」を確立してください。

- ②「年金支給開始年齢」の引き上げは行わないでください。
- ③ 年金の支払いは「2ヶ月に1回」から「毎月支給」に改めてください。
- ④ 「マクロ経済スライド制」を廃止してください。
- ⑤沖縄復帰特例で追納できず、無年金や低年金になった約16万名に対して、救済、保障措置を講じるよう国へ要請して下さい。
- ⑥加齢性難聴で補聴器を必要とする高齢者への助成を制度化してください。認知症予防のためにも制度化してほしい。
- ⑦高齢者・年金生活者の生活と健康を維持するために、敬老パスを制度化してください。高齢者が安心して移動できるように。
- ⑧高齢者の生存権、受療権を奪う後期高齢者医療費窓口負担2割負担、実施しないでほしい

II、自治体向け

- ①65歳以上の高齢者人口と高齢化率を教えてください。
- ②無年金者の把握は、困窮支援のためにも、孤立防止のためにも、住民にとっても、自治体にとっても重要な情報です。年金機構と協議し、貴自治体の「無年金者」の実態を把握する方法を検討してください。
- ③加齢性難聴に対して那覇市のように「補聴器の独自助成」を実施してください。
- ④「8050」問題の解決へ、引きこもりの実態掌握をお願いします。独自支援策があれば教えてください。

16:30-16:40 地域社保協1分リレートーク(7団体)

○南風原町社保協⇒秋山幹雄さん

子ども医療費無料化の中学卒業まで現物給付は、南風原町から始まったが、大きく前進してきています
 キャラバンに向けて国の制度化、ペナルティ廃止を求めましょう
 国保の国庫補助回復、法定外繰り入れ継続へとりくんでいきたい
 南風原社保協の役員体制を強化して取り組んでいきたい



糸満市社保協 平田清憲さん

○糸満市社保協⇒平田清憲さん

県社保協方針7つの戦略にのっとりがんばりたい
 役員事務局体制の強化が必要



浦添市社保協 比嘉直人さん

○浦添市社保協⇒比嘉直人さん

3月に浦添市社会福祉協議会と懇談
 生保受給者は増加していないが、支援金の期限が
 6月までとなっているので7月から増加を予想
 無料低額診療事業の周知も確認しました

○沖縄市社保協⇒前宮美津子さん

昨年は、子ども医療費無料化と現物給付化、沖縄市では10月から実施
 運動が結実
 75歳以上2割負担を実施させないたたかい声を上げていきたい
 キャラバンでいのちと暮らしを守るためにがんばりたい
 コロナで活動ができませんでしたが、今年は工夫して声を上げていきたい



沖縄市社保協 前宮美津子さん

○豊見城市社保協⇒伊計ノブ子さん・照屋つぎ子さん

豊見城市ではこども支援が強化。子ども未来市民会議が動き出している
 子ども応援課も設置され、生協支部も登録、大きな前進
 医療費現物給付が決まりました。大きな前進
 75歳以上2割負担の市議会に陳情、採択されました。
 ⇒照屋つぎ子さん
 生活保護の申請、同行したが、扶養照会出さなくていいのでは、と申し入れた。
 受理され支給決定した



豊見城市社保協 池井さん照屋さん

かなり迅速な対応ができるようになってきている。いっしょにがんばりましょう
 緊急の提案⇒大城郁男副会長
 コロナ禍の中で県民国民が苦しんでいる
 緊急に五輪は延期中止を決議したらどうか 緊急に動議します
 瀬底副会長

来年の活動の中の具体的戦略の中に、加盟団体の構成員に学習をどう広げる
 かが大事、もう一つは、生健会との共同企画で困窮支援企画計画したが、コロナ
 禍で中止にした。コロナ禍だからこそやるべきではないか。



大城郁男副会長

16:40-16:45 討論のまとめと新体制の提案

コロナ禍とのたたかい、またコロナ禍に便乗した政府のショックドクトリンとのたたかいのさなかに命を守り抜く社会保障制度の拡充前進のための貴重な討論、ご提案ありがとうございました。総会参加は、記念講演、オブザーバー含め 100 名、役員と代議員は 20 団体から 47 名の参加でした

発言は要請項目を深めるものが 7 本、提案が 2 本、地域社保協リレートークが 6 本あわせて 15 本いただきました
五輪中止等含む発言の内容は、方針に追加したいと思います。困窮支援企画はそれぞれの団体の取り組みがされていますので、支援していきたいと思います。これらの意見を踏まえまして、キャラバン要請書の完成、日々の方針の具体化を進めていきたいと思います。

これらの運動を前進させるあらたな役員体制の提案をさせていただきます

基本的には留任継続をお願いしていましたが一部変更があります

副会長の山里昌毅さんにかわり、安良城政俊さんを提案します

沖縄協同病院からの事務局次長に屋良樹一さんを提案します

監事の備瀬さんは、石川るみこさんと交代になります



新副会長 安良城政俊さん

16:50-55 方針採択

16:55-17:00 新役員挨拶 閉会挨拶

ご承認いただきました新役員を代表して。安良城政俊副会長より決意表明

○4 年前から、年金者組合も社保協と協力して副会長やっていくと決めました。私もがんばります。よろしくお願いします
さいごに、仲里尚実副会長より、閉会のあいさつ

○今日もまた 335 名と要請者が出たとのこと。コロナ禍の中だからこそ、社会保障の運動が重要であるということ
各加盟団体の力を結集して、がんばっていきましょう

2021 年度 第 22 期 県社保協 役員体制（案）

	第22期 役員体制		第21期 役員体制	
	氏 名	所属団体	氏 名	所属団体
会長	新垣安男	民医連	新垣安男	民医連
副会長	仲里尚実	保険医協会	仲里尚実	保険医協会
〃	大城郁男	医療生協	大城郁男	医療生協
〃	穴井輝明	県労連	穴井輝明	県労連
〃	瀬底律子	生健会	瀬底律子	生健会
〃	高嶺朝広	民医連	高嶺朝広	民医連
〃	安良城政俊（新）	年金者組合	山里昌毅	年金者組合
〃	神谷信夫	冲商連	神谷信夫（新）	冲商連
事務局長	高崎大史	民医連	高崎大史	民医連
事務局次長	島袋聡	医療生協	島袋聡（新）	医療生協
〃	屋良樹一（新）	沖縄協同病院	新垣哲治（新）	沖縄協同病院
〃	真栄城玄次	県医労連	真栄城玄次（新）	県医労連
〃	澤岨優子	冲教組那覇支部	澤岨優子	冲教組那覇支部
〃	西銘耕史	保険医協会	西銘耕史	保険医協会
監 事	石川るみ子（新）	冲商連	備瀬知允	冲商連
〃	当真嗣春	県生健会	当真嗣春	県生健会